厚生労働科学研究費補助金（健やか次世代育成総合研究事業）
小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性の検証に関する研究
（主任研究者　溝口　史剛）

講習会報告書　「国際シンポジウム：チャイルド・デス・レビュー《命に学び、命を守る》」

主任研究者　溝口史剛　　群馬県前橋赤十字病院小児科
分担研究者　尾角光美　　一般社団法人 リヴオン
研究協力者　山岡結衣　　オクラホマ大学ヘルスサイエンスセンター
　　小橋幸介　　松戸市立総合医療センター小児科

研究要旨
小児の死亡事例は、成人に比し発生自体がまれであり、一人当たりの医師の対応スキルが積みあがりにくい状況にある。それゆえ現在の小児死亡事例の対応のありようは、各地域・各病院でバラバラであり、死因究明のための取り組みや、子どもの死から学んだ知見の社会還元への取り組みがが、適切に提供されているとはとても言えない。
今回、小児死亡時にどのように考え、どのように臨床実践するのかの知見や意識を深めていくため、日本小児科学会子どもの死亡登録検証委員会（以下、委員会）と合同で「小児死亡時対応講習会」を開催した。またこの講習会では、現在やはり委員会と合同で実施している、小児死亡の後方視的検証の研究への参加を促進する役割も帯びたものとして実施した。

A.　研究目的

平成 30 年 12 月 8 日に成育基本法（成育医療等基本法）が成立し、第 15 条の 2 に「国及び地方公共団体は，成育過程にある者が死亡した場合におけるその死亡の原因に関する情報に関し，その収集，管理，活用等に関する体制の整備，データベースの整備その他の必要な施策を講ずるものとする」と明記され、施策として CDR 制度を構築していく基盤が整った（芽が出た）状態になった。ただし CDR を本当の意味で社会に根づいた制度（華が開いた状態）にしていくためには、各論部分、すなわち実際の方法論、を確立していく必要がある。そのためには現状で実際に CDR の概念を理解し、実践を積み重ねていく必要がある点に変わりはない。

本研究班のこれまでの研究成果と我が国の CDR の現状を発表し、我が国に先立ち既に CDR を国家的に社会実装している米国・英国、そして今まさに日本と同様に社会実装を積極的に検討している台湾の状況を共有し、本邦がどのように CDR の社会実装を行うべきであるかを議論するため、海外か

らシンポジストを招聘し、シンポジウムを実施した。

B.　研究方法

「国際シンポジウム」は以下のような形で開催された。
【開催日時】2019 年 2 月 2 日(土)〜2 月 3 日(日)
【会場】東海大学高輪キャンパス 2 号館

第 1 日スケジュール
2 月 2 日逐語通訳あり
9:30-10:00
- 主催者挨拶溝口史剛（前橋赤十字病院小児科）
- 子どもを亡くした遺族からのメッセージ
- 来賓挨拶自見はなこ参議院議員／小児科医

10:00-11:00
- 基調講演 1 座長: 仙田昌義（旭中央病院小児科）
  「チャイルド・デス・レビュー　アメリカ合衆国のシステムについて」
  テレサ・コビントン

11:00-11:30
- 講演 1 座長: 神薗淳司（北九州市立八幡病院）
  「日本の CDR の取り組みの現状について」
  沼口敦

11:30-12:15
- 講演 2 座長: 内山健太郎（賛育会病院小児科）
  「チャイルド・デス・レビューを推進する台湾の経験」
  呂宗學（ロバート・ルー）

13:15-14:15
- 基調講演 2 座長: 岩瀬博太郎（千葉大学/東京大学法医学）
- 「イングランドにおけるチャイルド・デス・レビュー　死からの学びと家族支援」
- ジョアンナ・ガースタング

14:30-16:00
- パネルディスカッション　座長: 溝口史剛/岡田邦之（おかだこどもの森クリニック）
- 「諸外国の CDR から学ぶ・本邦に活かす」
- パネリスト：各講演者、尾角光美（一般社団法人リヴオン）、山岡結衣（オクラホマ大学ヘルスケアセンター児童虐待ネグレクトセンター）

16:00-17:15
- 終わりの言葉　山中龍宏（緑園こどもクリニック）

海外講師紹介：
- テレサ・コビントン（Theresa Martha Covington）
  公衆衛生学博士。ミシガン州の the National Center for Fatality Review and Prevention （CDR のナショナルセンター）のディレクターに 15 年従事し、

アメリカ国内および国外の CDR トレーニングを行ってきた。

- 呂宗學（Robert Lu）
  公衆衛生学博士。台湾の National Cheng Kung University(國立成功大學）の公衆衛生学教室教授。台湾における CDR の社会実装の中心的役割を果たしている。
- ジョアンナ・ガースタング(Joanna Garstang)
- 小児科医。NHS 及び Warwick 大学に所属し、the Birmingham Child Death Overview Panel のメンバー。SIDS/SUID の専門家であり、CDR の指導的立場として尽力。SIDS/SUID で子どもを亡くした遺族団体である the Lullaby Trust とも緊密な連携を行っている。

第 2 日スケジュール

2 月 3 日同時通訳あり

- 9:20 - 9:30 ・挨拶/進め方説明‖山岡結衣
- 9:30-10:15 ・CDR 個別事例検証
  ファシリテーター:テレサ・コビントン
  10:15-10:30 ケース 1 振り返り、Q&A
- 10:30-11:15・CDOP 検証
  ファシリテーター:ジョアンナ・ガースタング
  11:15-11:30 ケース 2 振り返り、Q&A
- 11:30-11:50 全体の質疑応答
  小保内俊雅（多摩北部医療センター小児科）
- 11:50-12:00 まとめの言葉
  柳川敏彦（和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科）

C. 研究結果

本シンポジウムの講演レジメ、ならびに講演の逐語録につき、本研究報告書の末尾に報告集としてまとめ、掲示した。

D. 考察

諸外国の状況につき共有し、日本の CDR の在り方につき、より明確化した。様々な制約があり実事例を用いた検証が困難であったとしても、模擬事例を用いることで、各地で方法論を確立していくことは、十分に可能であることを確認した。

E. 結論

平成 31 年 2 月 2-3 日に、「国際シンポジウム」を開催した。この講習会には全国から参加者がおり、各地域でのチャイルド・デス・レビューの社会実装に向けた議論の促進ににつながると考えられた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

論文発表

なし

学会・シンポジウム発表

なし

書籍発刊

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

なし